

令和3年1月 27日

## 南の風 For Junior30

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いよいよ最終の4Qになります。

ボールポゼッションは桜花。江村選手からのパスを左サイドのコーナーで受けた朝比奈選手が、素早くオーバーヘッドでローポストにアングルを取ったアマカ選手にパスを入れる。ここは成徳がダブルチームで守りミスショットを誘った。

成徳ボールとなり、パスを回して山田選手に合わせると左45°から右にフェイクを入れ果敢にドライブインする。朝比奈選手のファウルとなる。山田選手がフリースローを2本決めて10点差とする。成徳はオールコートのゾーンプレスを敷き上から当たる。桜花は江村選手が冷静にボールを運ぶ。しつこくディフェンスする成徳だが、江村選手がローポストにポジションを取ったアマカ選手にパスを入れゴール下シュートが決まる。(桜花64対52東京成徳)

桜花はさらに江村選手が右サイドからベースラインにドリブルすると、アマカ選手がエルボーからダブルする。江村選手のタイミング絶妙のパスがアマカに入りゴール下ショットが決まる。

流れを切りたい成徳は、山口選手がトップからディープスリーを決める。リズムを作りたい成徳だが、江村選手のドライブインをフォローしたアマカ選手がリバウンドからシュートを決め流れを渡さない。何とか食らいつきたい成徳は、古谷選手が右ウイングから3Pを決める。(桜花68対58東京成徳)

しかし桜花のアマカ選手の得点が止まらない。アマカ選手は江村選手とのハイピックからダブルする。ドリブルした江村選手からティーアップした朝比奈選手にパスが渡り、ローポストでアングルを取ったアマカ選手がパスを受けシュートが決まる。ドンピシャのタイミングだった。

その後もアマカ選手にディフェンスが集中すると、素早く朝比奈選手がエルボーに上がりシュートを決める。アマカ選手のシュート率も落ちず桜花が得点を重ねる。桜花74、成徳58となったところで東京成徳がタイムアウト。

桜花はタイムアウト明けもアマカ選手が着実に得点する。展開を開拓したい成徳は、オールアウトから古谷選手がドライブでペイントを攻め得点したり、山田選手がトップの位置からジャンプショットを決めたりして追いすがる。桜花は落ち着いて、中を守る成徳の逆を突いて前田選手が3Pを沈める。さらに江村選手の長いオーバーヘッドパスからアマカ選手がゴール下を決める。桜花81対62成徳となったところで成徳がタイムアウト。成徳はタイムアウト後、須田選手が左ウイングから3Pを決める。

桜花は攻撃の手を緩めず、アマカ選手のゴール下、朝比奈選手のダブルからのゴール下シュートが確実に決まる。さらにアマカ選手、江村選手のシュートが決まり勝敗が決した。

最終スコア、桜花89対65東京成徳となり、桜花学園が2年連続23回目の優勝を飾った

この桜花学園の優勝は高さを生かした攻めと、江村選手という絶対的なフロアリーダーがチームを一つにまとめた結果であった。敗れたとはいって、東京成徳のどこからでも得点できるシュート力や、流れを掴みに行くオールコートプレス、チャンジングディフェンスは練習の賜物であった。そして緊迫したゲームの中で、東京成徳の選手が見せたさわやかな笑顔は、バスケットボールファンの心を魅了した。